

1 年次履修科目「産業社会と人間」について

【産業社会と人間とは？】

「産業社会と人間」は総合学科ならではの科目であり、自己の在り方や将来について様々な角度から主体的に学び、自分探しから自分の進路、社会における自分の役割や存在意義などについて学んでいきます。

【在校生（2 年次） 仲沢優奈さんの取り組み】

「産業社会と人間」の授業は、一学期に、地域マイスターと呼ばれる方々が地域の課題を提起してくださることから始まりました。その後の授業では、卒業した先輩方や、ボランティア活動に参加した同級生など、様々な方のお話を聞きます。そして、三学期の最後には地域マイスターからの課題に対してプレゼンをします。



そのマイスターの中の一人に、子ども食堂の理事長を務める女性がいました。その女性は心理カウンセラーでした。もともと心理学に興味があった私に、担当の先生はその子ども食堂の、ボランティア活動を紹介してくださいました。夏休み期間を利用してボランティア活動に参加してみると、様々な学びがありました。特に、一人で食事をしなくてはならない「孤食」を初めて知ったときには衝撃を受けました。

夏休み明けには、各々が気になることについてまとめる授業がありました。マイスターの講話を聞き、疑問に思ったことについてまとめるというものです。同じ講話を聞いたはずなのに一人一人違う観点や、異なったテーマでまとめられていて面白かったです。様々な考えやアプローチは、更なる学びに繋がったと思います。



十月、いよいよプレゼンの準備が始まり、四人一組のグループでプレゼンする課題を決めます。私たちの班は、子ども食堂でのイベントの企画をしました。内容やルールを考え、ポスターやプレゼン資料を作成しました。班の人の得意分野や、長所を知ることができる良い体験になりました。私の班がプレゼンした、子ども食堂での運動会は実現することになりましたが、新型コロナウイルスの影響でいつ開催することができるかはわかりません。しかし、開催できることを楽しみにしています。



「産業社会と人間」の授業には板書がなく、ノートも必要ありませんが、代わりに、自分で考えて行動する力が必要になってくるのだと思います。もしこの授業が無ければ、孤食や、子ども食堂でのボランティア活動の存在を知ることが出来ませんでした。ボランティア活動に参加して、子どもたちから学びや元気をもらうことも多く、改めて私は子どもが好きなのだと気づかされました。この授業を通して、子ども食堂を支える方々の思いや努力を知った私は、「産業社会と人間」の授業が終了した現在も、子どもたちを支援するボランティアに継続して参加しています。どのようにしたら、子どもたちに楽しんでもらえるかを考えて行動するのは難しいですが、とてもやりがいを感じています。

